

# JAL被解雇者労働組合（JAL 争議団）

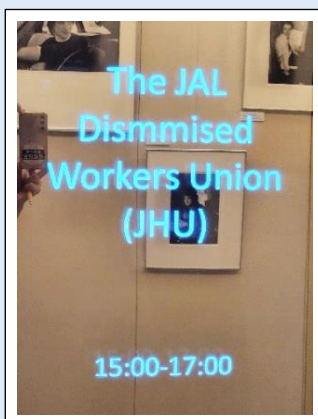
9月17日

[info@jhu-wing.main.jp](mailto:info@jhu-wing.main.jp)<https://jhu-wing.main.jp/>

## 外国特派員協会で初 記者会見！

### JAL 解雇争議、更に国内外に発信していく！

9月17日、JAL 被解雇者労働組合（JHU）は、初めて「外国特派員協会」で記者会見を行いました。会見では解雇に至る経緯、狙い、そして未だに争議が解決していないことを訴え、グローバル企業 JAL の不当労働行為の実態を世界に知らせる第一歩となりました。今後更に国内外に情報発信をしていきます。



記者会見では、冒頭、山口委員長が、解雇の目的がモノ言う労働者の排除と組合の弱体化にあったことを述べ、争議の解決に背を向ける JAL 経営の実態を世界の人々に知ってもらいたいと訴えました。

続いて、山崎書記長から、解雇争議の概要と問題点について基調報告を行い、JAL が削減目標に達しなかったと偽り、165名の解雇を強行した証拠を紹介し、解雇の不当性や真の狙いを明らかにしました。

現役組合員（客室乗務員）からは、「99%が女性である客室乗務員の賃金格差」などの職場実態を語り、組合活動の中心メンバーが解雇されモノ言えぬ職場になっていると、客室乗務員が抱える問題解決のためにも、解雇争議の解決が必要だと訴えました。

出席した記者からは、「最高裁元判事が裁判中に JAL の社外取締役役に就任していたことは法的に許されるのか」、「JAL の男女賃金格差で女性が 45.3%になっているが全職種が対象か」、「安全報告書や ILO166 号勧告など会社の主張は破綻している。それをどう突破するのか」、「民間空港が有事の際、国の管理下に入る動きについて、航空労働者としてどう対応するのか」などの質問がありました。



公益社団法人 日本外国特派員協会



【左から】山崎書記長、小栗副委員長、山口委員長、渡辺組合員、指宿弁護士